

一月のテーマ

先を見る目



え・古屋智子

# 先を見るには 足元を見よ

**遠**

い先を見据えて企画・計画を立てることは、企業にとって欠かせないことです。時代の変化を見越して、さらに自分自身の成長するイメージを重ねながら、「大きな夢」「高い理想」に向かって走り抜いていけたら、どんなによいでしょう。

とはいえ、頭でわかっている、実際に行動に移すのは難しいものです。うまくいくかどうか、この先どうなるかと、先のことを憂えたり、結果を求め過ぎてばかりいると、逆に身動きが取れなくなる、ことがあります。「先を見る」といながらも、先のことを考えれば考えるほど暗くなるのでは、本末転倒でしょう。

このような状態になった時にはむしろ「先を見ない」という判断も必要でしょう。

もちろん、ここでいう「先を見ない」とは、「どうにでもなれ」と自暴自棄になることを勧めているわけではありません。まず何よりも、足元をよく見ていただきたいのです。拠って立つ地盤がしっか

りすると、将来のイメージも、ぼんやりとしたモノクロ映像ではなく、カラーの鮮明な映像でイメージできるようにあります。

「先を見る」上においても、まずはしっかり足元を見つめ、地盤を固めていくこと。その心持ちを一言で言うなら、「今を生きる」ということになるでしょう。

＊

水道工事会社に勤めるIさんは、例年の業務に、水道メーターの交換があります。与えられた期間に、各家庭や公共施設を訪問してメーターを交換していく、単調な作業の繰り返しです。

考えることは、「ここまで終わったら残りはいくつだ」と、数のことばかり。数が減っていくことだけを小さな喜びに、仕事をこなしていました。

しかし、すべて終わっても、後に残るのは、「やっと終わった」という実感だけでした。達成感より、精神的苦痛と肉体的疲労ばかりが後に残るのでした。

Iさんは、仕事そのものに対す

る喜びよりも、残りわずかになったメーターを見て、喜びを感じていたのです。それは、仕事本来の目的からは離れたものでしょう。

数をこなすという結果だけに意識が向いていたIさんは、訪問先での挨拶も、覇気がなく、暗いものでした。もし、一軒一軒に心を向け、感じのよい明るい挨拶ができていたら、会社のイメージアップにつながったかもしれません。

また、メーター交換の際に、機器周辺の状況や水道設備全体にも目を配っていれば、新しい仕事に結びつく何かが見つかったかもしれない、可能性もあるでしょう。

今この時、この瞬間の仕事に全力を注ぐこと、日常生活の一瞬に情熱を傾けることが「今を生きる」ことに他なりません。その姿勢が「今」を充実させ、結果として、先々の展望を開いていきます。

輝かしい希望を抱いて、揺らぐことなく走り抜いていくためにも、自分の足元を疎かにせず、「今を生きる」心持ちを貫いてまいりましょう。